

第13回： 組換え微生物の環境への利用の展望と問題点

開催日： 1988年12月9日 / 会場： 「自動車会館」東京都

開催趣旨： 組換えDNA技術が確立されて10年以上が経過し、ファインケミカルス、特に医薬品の分野では、既に実用化あるいは商業化が進んでいます。本技術には大きな期待がかけられているものの、組換え微生物が自然環境下へ放出された場合の安全性の点では、批判も多いところでもあります。当協会では、組換え微生物の自然環境化での利用の可能性を展望すると共に、利用する場合の安全対策、そして問題点等を明らかにするためセミナーを企画しました。

講演タイトル（講師／所属（当時））：

- 組換え技術の本質とその現状（矢野圭司／東大・農）
- 米国における組換え微生物利用の現状と展望（大竹久夫／東大・応微研）
- 組換え微生物の環境への利用と展望（古川謙介／工技院）
- 組換え微生物による排水処理の新しい試み（藤田正憲／阪大・工）
- 科学技術庁における関連施策（水野隆史／科技厅）
- 環境庁におけるバイオテクノロジーへの取り組み状況と内外の動向（今田長英／環境庁）